

クボタ「救済金」支払い、271人

一増え続けるアスベストによる肺がん、中皮腫一

昨年11月にクボタのホームページで公表された9月30日までの「救済金」支給者が、周辺住民だけで半年間で6人増加し、271人となった。クボタ旧神崎工場労働者の被害者192人と合わせて、463人が犠牲となった。

2009年3月発表から、クボタ労働者の被害者を周辺住民被害者が上回り、その傾向は続いている。協会尼崎支部も参加する「アスベスト被害からのちと健康を守る尼崎の会」事務所にも、相談が相次いで寄せられており、被害のピークは収まりそうもない。

一尼崎市がリスク調査事業を中止一

これだけ小田地域を中心に被害が発生し続けているのに、尼崎市は環境省から委託を受けて行ってきたリスク調査事業を昨年10月末で中止した。市報では同事業の中止のみの「お知らせ」で、今後どのようにアスベスト被害者の早期発見を市の責任とするのか、全く示されていない。「尼崎の会」は昨年4月、稲村市長と面談し、「尼崎市で肺がん検診(アスベスト検診を兼ねた)を復活させるとともに、ハイリスク者には独自の『石綿健康管理手帳』を発行し、毎年の検診を促すなど、経年的な検診で、早期発見・早期治療に繋げることが可能となる制度を設けること」などを求めている。

泉南アスベスト訴訟最高裁判決では尼崎アスベスト訴訟の被害者は救済されず 最高裁に向け、3万筆署名のご協力を!

泉南アスベスト訴訟の最高裁の判決(昨年10月)は、アスベストによる健康被害について国の責任を初めて認めた。しかし、昭和33年～46年までの局所排気装置を設置しなかった国の不作為の違法性を認めるにとどまり、昭和46年以降の濃度規制やマスク規制の不備に関しては違法性を否定した。この判決からいくと、尼崎アスベスト訴訟の被害者の救済にはつながらない。引き続き、「いのちと健康を尊重する公平、公正な審理を」求める署名(3万筆目標)へのご協力をお願いしたい。

署名用紙のご注文は、協会事務局までTel 078-393-1809まで

尼崎アスベスト訴訟(労災型)の判決日が、3月23日(月)に決定

「泉南アスベスト訴訟最高裁判決を待つ」との神戸地裁の判断で、延期されていた尼崎アスベスト訴訟(労災型)の判決公判が、3月23日(月)に行われることになった。多数の傍聴をお願いしたい。

3月23日(月)13時15分/神戸地方裁判所 ※判決後に裁判所近くで「報告集会」を開きます。

兵庫県保険医協会

尼崎支部ニュース

361号

2015年1月25日付

〒660-0055 尼崎市稲葉元町2-11-10 八木クリニック
兵庫県保険医協会尼崎支部 TEL06-6417-6600 FAX06-6417-6011

新年のご挨拶

社会保障の充実めざそう

尼崎支部長 八木 秀満

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、消費税増税で苦労されたことと思います。今年こそは、よい年になってほしいですね。

今年、介護報酬改定の年ですが、どうも、マイナス改定になりそうです。その理由が、中小事業者の伸び率と比べて介護事業者の方が多からというのです。どうして、大企業の伸び率を入れないのか不思議です。

また、2025年には、医療費が6%増加する見込みのようですが、その内の自然増分を何とか減らそうとしています。その為か、以前、立ち消えになった窓口での自己負担金をワンコイン分増やそうとしているようです。消費税と同じで、はじめは100円であっても、そのうち、200円、300円と増やされかねません。

今、協会では、自己負担増加の反対署名活動をしております。2万筆を超えていますが、会員一人当たり10筆を目標としておりますので、まだの方は、是非、ご参加くださるよう、お願いします。

安倍首相の言葉は、「詐欺に当たる」としている人がいます。口では、耳障りの良いことをいうのですが、実際にしようとしている事は、本当に国民のためになるのかどうか疑問です。

本年も、社会保障の充実をめざして、がんばりましょう!!

今年もよろしくお願ひ致します

幹事一同



尼崎支部 第92回医療と福祉を考える会

装具療法で安全確保を



実際に装具を身に付けて感触を確かめた

11月6日、尼崎支部では第92回医療と福祉を考える会を、尼崎中小企業センターにて開催。「くらしの中での装具～装具療法ってなあに?～」をテーマに(株)大装ブレースの鈴木真行氏が講演し、医師や看護師など14人が参加した。

初めに鈴木氏は、装具とは「四肢体幹の機能障害の軽減を目的として使用する補助器具」のことであると説明。装具の装着により、動きの制限・援助、角度調整、免荷等の効果が期待でき、治療やリハビリにも大いに利用できると話した。

また会場にはコルセットや足底板、短下肢装具等を展示し、多くの参加者が実際に装具を身に付け、感触を確かめた。症状に合った適切な装具を使用することで、治療だけではなく、悪化の予防や日常生活での安全確保にもつながっていくと身をもって学ぶ機会となった。

支部ニュースへの投稿を募集しています

支部ニュースへの投稿を募集しています。
日常診療にかかわることや、主張、趣味のお話などお寄せ下さい。

TEL 078-393-1805 / FAX 078-393-1802 e-mail naga@doc-net.or.jp 担当；長澤まで



第492回幹事会だより

12月19日(金) 於 JR立花「日出安」

- 尼崎支部の会員数
12/18現在 医科375人、歯科148人
- 医療をめぐる情勢と運動対策
当面の支部企画、選挙結果や医療情勢などについて意見交換した。
- 次回の幹事会
1月25日、阪急塚口「clover」で開催。

尼崎支部 秋のウォーク

有岡城跡やスカイパークを散策

尼崎支部は、11月29日に「秋のウォーク～有岡城跡とスカイパーク～」を開催し、会員、スタッフらが史跡めぐりなどおよそ4.5キロの行程を楽しんだ。

当日は、伊丹市文化財ボランティアの会から2名のガイドによる解説のもと、大河ドラマの影響で一躍注目を浴びているJR伊丹駅前の「有岡城跡」、口酒井(くちさかい)に存在する県指定文化財の「春日神社」を経て、大阪国際空港西側に位置する「伊丹スカイパーク」まで足を伸ばした。

スカイパークでは、スカイテラス(展望施設)から間近に見える航空機の離着陸の迫力を体感。参加者は持参したカメラを滑走路に迫る航空機に向けてシャッターを切っていた。出発地点のJR伊丹駅まで戻った一行は、終了後に懇親会を行い労をねぎらうとともに親睦を深めた。

支部では、今後も会員やスタッフらが気軽に参加できる文化企画を開催する予定にしている。



ガイドの説明を熱心に聞く参加者

「ストップ患者負担増」署名 めざせ！5万筆

受付・待合室に署名用紙を設置し、患者さんに呼びかけてください

“保険で良い医療をひろげましょう”

協会では政府が検討課題とする定額受診時負担、漢方薬や湿布薬などの保険外しといった患者負担増計画を許さないために、「新たな患者負担増をやめ、窓口負担の大幅軽減を求める請願」署名運動を5万筆を目標に取り組んでいます。

会員の先生方におかれましては、受付・待合室に署名用紙を設置のうえ、患者さんおよびそのご家族にも幅広く協力を呼びかけてください。まずはご自身・ご家族・職員の方々の署名を協会までご返送いただきますようお願いいたします。

署名用紙の追加をご希望の場合は、協会事務局までご連絡ください。

